

2024 年度 武蔵野学芸専門学校 事業報告

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

(担当者：校長 三上慎之介)

●在籍者数（2025 年 5 月 1 日現在）

(単位：名)

課程	専門課程	高等課程	計
学科	国際コミュニケーション学科	国際芸術学科	
入学定員	60	40	100
収容定員	120	120	240
新1年生	59	43	102
新2年生	43	33	77
新3年生	-	30	30
計	102	106	208

I. 2024 年度の事業概要

- ① 専門課程では、就職希望者の内定率 100%をはじめ、難関美術大学進学、編入、大学院進学、作家活動などの多岐に分かれる美術の進路に対応する教育を行った。2024 年度においては学生たちの将来のビジョンを明確にするために電通デザイナー 今井祐介氏、イラストレーター タカヤマトシアキ氏、アーティスト OJUN 氏など数多くの著名人の特別授業を実施し、就職対策の強化を図るとともに、前期、後期に 2 回以上の就職セミナーの開催を行い、就職対策の拡充を行った。
- ② 高等課程では 80%を超える美術大学への合格率に加え、映画『キングダム』監督の佐藤信介氏が運営する Angle Pictures との産学連携、視覚障がい者に向けたネイルアート、こども絵画教室へのボランティア活動、武蔵野市との官学連携を実施し、社会の中でのアートの可能について生徒が学べる教育を行った。

事業計画項目	達成度
(1) 難関美術大学進学	達成度90%。3年連続で50名を超える合格実績に加え、多摩美術大学9名、武蔵野美術大学10名、女子美術大学10名をはじめ、大学編入試験に5名が合格し、62名の美術大学への合格者を輩出した。
(2) 募集実績	高等課程では入学定員を上回る43名となり、定員充足率が107.5%となった。ホームページを含めた広報活動に加え、本校が美術大学への進学校として認知が広まってきたことが要因となった。
(3) 国内外で活躍する著名人による特別授業の実施	達成率 90%。連携企業 6 社による特別授業（宮内不朽堂、株式会社竹尾、株式会社電通）。また、画家 OJUN、漫画家 丸山恭右を中心としたアーティスト・デザイナー・イラストレーター（5 名）による特別授業を実施した。
(4) 展示活動の推進、及び公募展出品への奨励	在校生の展示活動の他に、在校生の受賞をはじめ、卒業生が美術展において数多くの受賞を果たしており、本校の学生が社会の中で認められた。

II. 2024 年度の取り組み

1. 2025 年度入学生募集活動

高等課程では入学定員を上回る 43 名となった。広報対策として高等課程のブランディング強化のために漫画家 丸山恭右氏による書き下ろしイラストをメインビジュアルに採用し、WEB 広報を基軸に美術大学への進学校としての知名度戦略を行った。

入試状況

課程名	受験者数	入学者数
専門課程	117 名	58 名
高等課程	47 名	43 名

<募集活動における課題と改善>

- (1) 専門課程のオープンキャンパス 119 名参加、高等課程オープンスクール 129 名参加
- (2) 専門課程においては、2024 年度より 2 年連続で日本人入学者が 25 名となり、募集状況は良好だが、人気のあるコースに出願が集中する傾向が見られるため、コースごとの魅力を強化する。併せて、高等課程においては編入希望者の獲得に向けた広報活動についても拡充する。

2. 2024 年度に実施した新たな事業内容の結果と 2025 年度への課題

項目	事業内容	2025 年度への課題
(1) 学生募集強化	達成率 95%。プランディング強化とともに知名度戦略として、MEO 対策、進学サイトなどの WEB 広報活動を強化し、ホームページへの動線を確立した。	専門課程においては、3 月末に辞退者が例年に比べ増加し、入学者が昨対比 -7 名となった。今後の課題として専願での受験生の優遇や補欠合格者の確保などの見直しを行う。
(2) 研修による教員育成	達成率 80%。全教員に向けた教職員総会、講師会、講師学習会を開催し、提供する教育内容の充実を図った。	高等課程生への不登校指導、保護者対応、及び災害時の教職員の学生対応の研修を行い、学校の信頼性と質の高さを上げる。
(3) こども絵画教室	達成率 95%。近隣に住む 5~12 才の 20 名が参加した。本校学生のボランティア活動の場を創出するとともに、社会活動による人間性の教育、及び地域連携の強化を図った。	学童保育に近い役割で 3 週間実施した。保護者からの期待度も高いことからカリキュラムの内容を拡充し、ボランティアスタッフへの教育も充実させる。

III. 教育成果

1. 主な進学・進路先

武蔵野美術大学 11 名、武蔵野美術大学大学院 1 名、多摩美術大学 9 名、東京造形大学 1 名、女子美術大学 10 名、日本大学芸術学部 1 名、沖縄県立芸術大学 2 名、大阪芸術大学 2 名、大阪芸術大学大学院 1 名他

2. その他特筆すべき事業成果

項目	事業内容・結果
(1) 美術大学との教育連携	9 年間、継続して実施する東京芸術大学との教育連携は本校行事の中で中心的な役割を担っている。また、武蔵野美術大学 教授 小林耕平氏によってアートの中で新しい視点を生み出す授業を行うなど、美術大学との密接な教育連携による独自の教育プログラムを確立させた。
(2) 卒業制作展示	佐藤美術館、アートコンプレックスセンター ギャラリーで卒業制作展示を実施し、産官連携を行う武蔵野市緑のまち推進課の松崎参事、高橋係長、吉川様の 3 名に来場していただき、賞を選定、卒業式で表彰を行なった。

以上